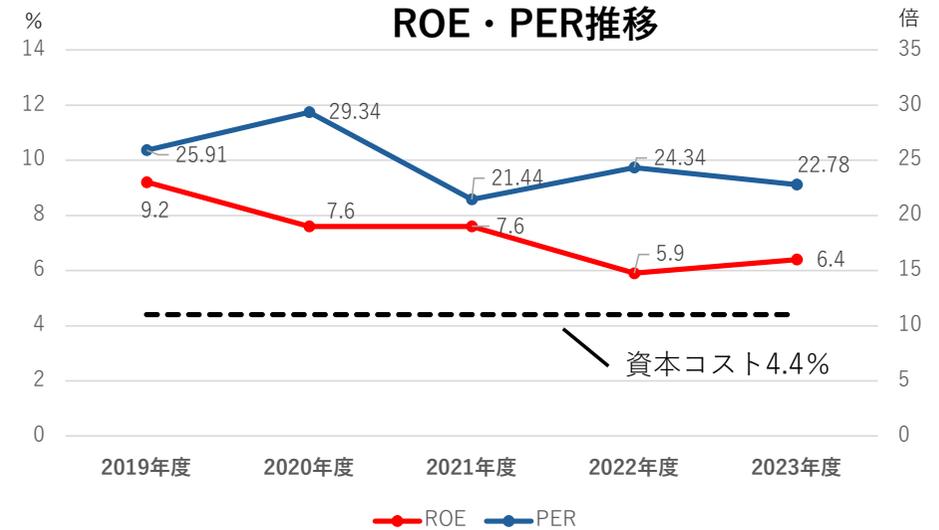
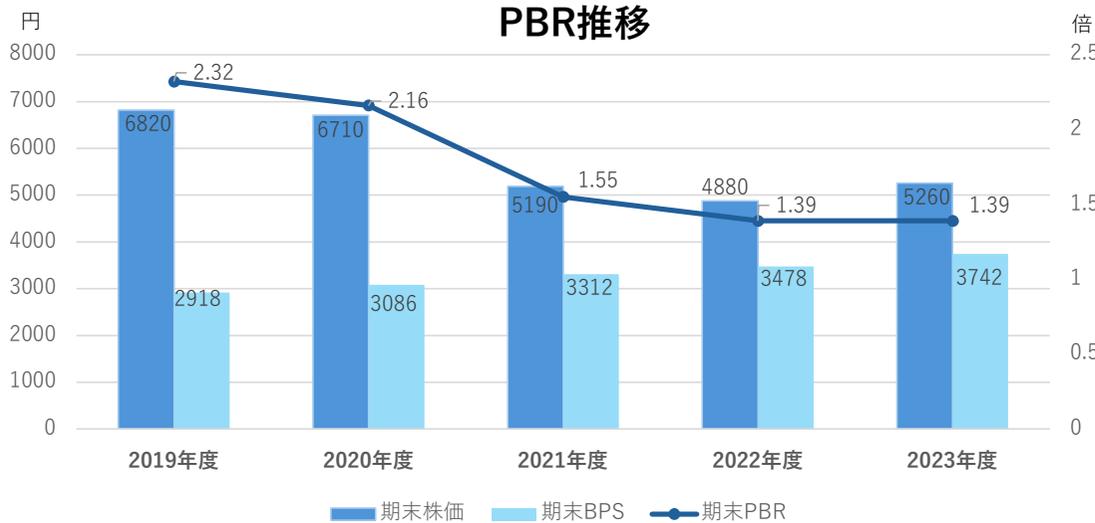


資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について

2024年5月10日

アリアケジャパン株式会社

現状分析



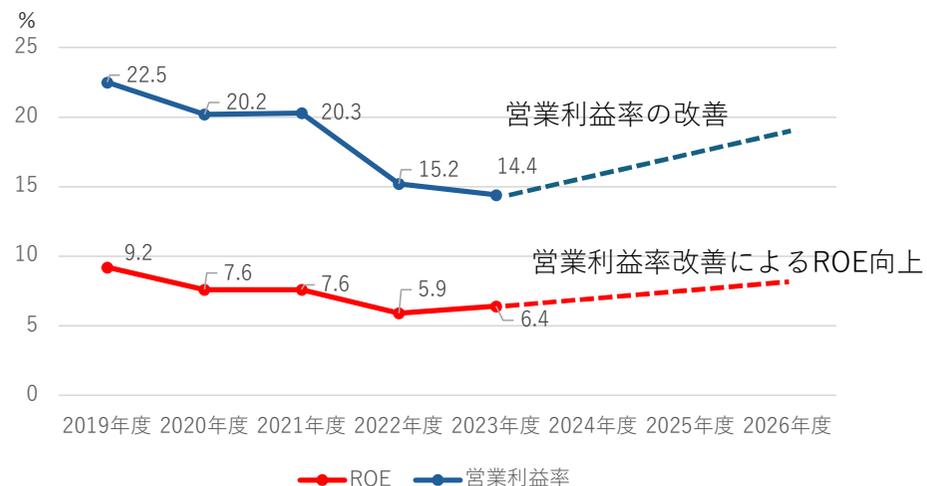
- 指標 株主資本コスト=WACC (CAPMベース) 資本収益性=ROE 市場評価=株価、PBR、PER
- ROEはCAPMベースの株主資本コスト (4.4%) を上回り、PBRは1倍を超えているが、低下傾向にある。
資本コストに対する超過 (エクイティ・スプレッド) を拡大し、継続的にROEを向上させる必要がある。
- 原材料高、円安等の影響を受け、収益性が低下している。
- 資本の活用と成長戦略の外部アピールが不足、資本市場、ステークホルダーの期待感が不足。

方針・目標と取り組み



$$PBR = ROE \text{ (収益率)} \times PER \text{ (成長期待)}$$

収益性の改善と資本市場の成長期待感を向上



- 中長期的に収益性（営業利益率）の改善に取り組む。価格改訂、リニューアル、コストダウン、VAなどによる利益改善実施。
- 収益性改善によるROEの向上。中期的にはROE8%、長期的には10%を目標とする。
- 資本市場との丁寧な対話と情報開示の充実を図る。中長期的な成長戦略の発信強化。
- 成長余地の大きい海外グループ会社に資源を集中。設備投資を行い売上を伸長させ、2030年に連結1000億円を目指す。
- DOE3%の基本方針を維持し、純資産に見合う株主還元を実施。
- 政策保有株の中長期的な企業価値向上への貢献度を検証、保有量の縮減を推進。